様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	自然系コース（理科）／工藤慎一

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

教授すべき学問内容に関して付け焼き刃の知識や理解では，「高度専門職業人として位置づけられた教師」としての資質に欠けることは明白であろう。自然科学分野の教師の育成においては，その点特に留意すべきである。バランスのとれた構成と盛り込むべき内容に過不足ない授業計画をたて，板書のみに頼らず授業内容を効率よく伝えるプリント資料を作り，試験のみに頼らない多角的な成績評価を行うことによって，実力ある教師の育成を目指す授業とする。

2．点検・評価

バランスのとれた構成と盛り込むべき内容に過不足ない授業計画をたて，板書のみに頼らず授業内容を効率よく伝えるプリント資料を作り，試験のみに頼らない多角的な成績評価を行うことによって，実力ある教師の育成を目指す授業を行った。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

研究室内セミナーや研究指導，論文執筆指導などを通じて，学生・院生の研究指導を熱意を持って行い，自然科学の最前線に触れさせることで，学生・院生の論理的思考能力の向上を目指す。

2．点検・評価

教室内セミナーや研究指導，論文執筆指導などを通じて，学生の指導を熱意を持って行った。その結果，卒業研究の成果の一部を専門学会で発表する（小汐千春・藤本笙太・小笠航・立田晴記・工藤慎一．フタイロカミキリモドキ与那国島個体群の形態形質と配偶行動．日本動物行動学会第32回大会）などの成果をあげることができた。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

従来通り，「親の投資進化」に関する課題を中心に研究を推進する。特に，これまで科研費を受けて進めてきた「ヒラタヤスデの繁殖生態」ならびに「ツチカメムシ類の栄養卵生産と種子給餌」に関する研究成果を論文として国際学術誌に投稿することを目指す。

2．点検・評価

これまで科研費を受けて進めてきた研究の成果の一部をまとめた論文を国際学術誌並びに国内学術誌に複数投稿中であり，後者は受理間近な状況にある。特に「ツチカメムシ類の繁殖投資」に関する研究成果に関しては，国際会議「The 29th symposium of the Society of Population Ecology」のセッション「Evolutionary and Population Ecology of Maternal Effects」において「Maternal effects on family dynamics: causes and consequences of variation in trophic-egg production of burrower bugs」の演題で招待講演を行う等，成果の評価も高まりつつある。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

学内委員会委員に就任した際は，教育部並びにコースと連絡を密に取って適切な活動を行う。

2．点検・評価

安全管理委員会委員及び臨床研究倫理審査委員会委員として，教育部並びにコースと連絡を密に取って適切な活動を行った。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

日本動物行動学会の副会長並びに運営委員として，学会運営上の懸案事項の審議を積極的に進める。

エディトリアル・ボードやレフェリーとして国際学術雑誌の編集に責任を持って携わり，日本の基礎科学に対する国際社会の信頼を損なわないように努力する。

2．点検・評価

日本動物行動学会の運営委員ならびに新たに就任した副会長として，懸案事項の審議を積極的に進めた。

Journal of Ethology誌のeditorial boardとして活動した。また，Ethology誌など国際学術誌のreviewに携わった。

附属中学校LFT講師を務め，「昆虫の家族：驚きに満ちた親子関係」の演題で講演を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）